

おはなし

夏目漱石

青空文庫

私はこの学校は初めてで——エー来るのは始めてだけれどもご依頼を受けたのは、決して、初めてではありません。

二三年前、田中さん（田中喜一、東京高等工業学校教授）から頼まれたのです。その頃、頼みに来て下さった方は、もうご卒業なさったでしょう。それ以来、数十回のご依頼を受けました。がみんなおことわりしました。ことわるのは面白いからではなく、止むを得ないからで、この止むを得ない事が、度^{たび}重^{かさ}なっておきのどくなのでその結果今日やって来ました。言わば根くらべで根がつき出て来たようなしまつ、面白い話もできかねます。今からとにかく一時間ばかり、話します。それゆえ、題なんかありません。

私は専門があなた方とは全然ちがっています。こんな機会でなければ、顔を会^あわすことはありませんが、それでも私は工業の部門に属する専門家になろうとした事がありました。私は建築家になろうと思いました。なぜってというような問題ではない、けれども話のついでに話します。

まだ小供のとき、財産がなかったので、一人で食わなければならぬという事は知っていました。忙がしくなく時間づくめでなくて、飯が食えるという事について非常になやみ

ました。しかし立派な技術を持つてれば変人でも、頑固がんこでも人が頼むだろうと思ひました。佐々木東洋という医者があります。この医者が大へんな変人で、患者をまるで玩具おもちゃか人形のように扱かう愛嬌あいきょうのない人です。それで、はやらないかといえば不思議なほどはやつて門前市もんぜんいちをなすありさまです。あんな無愛想な人があれだけはやるのは、やはり技術があるからだと思ひました。ゆえに建築家になつたら、私も門前市をなすだろうと思ひました。高等学校時分の事でした、親友に米山保三郎という人、夭折ようせつしましたが、この人が説論せつゆしました。その説論に曰く、セントポールのような家は我国にははやらない。くだらない家を建てるよりは文学者になれといひました。当人が文学者になれというたのはよほどの自信があつたからでしょう。私はそれでふつつりやめました。私の考かんがえは金をとつて、門前市をなして、頑固で、変人で、というのでしたけれども、米山は私よりは大変えらいような気がした。二人くらべると私がいかにもちつぽけなように思われたので、今までの考を止めました。そして文学者になりました。その結果は——分りません、恐らく死ぬまで分らないでしょう。それでこういう方面に入ったので、あなた方は専門としては、この方面ではないけれども、この会は文芸の会で、ベルグソンなども出るようですからこの事については共通しているようにも思われます。よく講演なんていうと西洋人の名前な

んか出てきてききにくい人もあるようですが、私の今日のお話には片仮名の名前なんか一つもでてきません。

私はかつてある所で頼まれて講演したとき、日本現代の開化という題で話しました。今日は題はない、分らなかつたから、こしら拵えません。

その講演のとき開化の *definition* を定めました。開化とは人間の *energy* で、これが二つの異つた方向に延びて行つたのが、入り乱れてできたので、その一つは活力の表ひょうけん顯、あるいは実顯とつて *energy* を節約せんとする吾人の努力、他の一つは *energy* を消耗せんとする *consumption of energy* である。この二つが大なる *factor* といふ以外には、何も無い。ゆえにこの二つのものは開化の *factor* とつて *sufficient and necessary* である。それで第一の活力を節約せんとする努力は種々の方向へ出るが、まず距離をつめる、時間を節約する。手でやれば一時間かかる事も、機械で三十分でやってしまう。あるいは手でやれば一時間かかつて一つできるところを、十も二十もつくるのが、吾々の生活の便を計るのである。これがあなた方の専門のもので、他の *factor* すなわち *consumption of energy* の努力は積極的のもので、ある人から見れば、国力等の立場より見なして消極的に誤解されてる文学、美術、音楽、劇等なくてすむものであります、しかもありたいものなのです。これら

は幾分か片方で切りつめてこの余った energy をこの方向にける、どちらかといえは押おしふとい方なのです。私などはこの方面へ向って行く、この方面からいえば時間距離なんていう考はありません、飛行機——飛行機のような早いものの必要もなく、堅けんろう牢なものも必要もなく、数でこなす必要もない。生涯にたった一つだっただけのいいのを書けばいいのです。すなわちあなた方とはかく反対になっているのです。二つのものの性質を概括しているときは、あなた方の方は規律で行き、私どもの方は不規律で行く。その代り報酬はごく悪い。金持になる人になりたい人は、規律に服従せねばならない。

あなた方の方は mechanical science の応用で私どもの方は mental なのだから割がいいよ
うだ。けれども実は大変に損をしているのです。しかしあなた方は自由が少いが私どもは自由というものがなければできない仕事であります。なおいいかうればあなた方は仕事に服従して我というものをなくなさなければできないのです。各自個々勝手な方面へ行つたなら、仕事はできない。私どもの方は我を發揮せなければ、何もできません。

そこで、あなた方の方でする仕事というものを見ると普遍的すなわち universal の性質を持つている。私どもの方は universal でなくて personal の性質を持つています。なお敷ふ衍えんしていえばあなた方はまず公式を頭の中に入れて、その application が必要である。それ

は人間が考えたものにちがいないけれども、私がこのものがいやだというても御免こうむることはできない。universal ということは personality という個人としての人格じやなく、personality を eliminate し得る仕事なのです。この鉄道は誰が敷設したという事は素人にはあまり参考になりません。この講堂は誰が作ったって問題にならない。あすこにぶらさがつてるランプだか、電気だか何だか知らないが、これには何の personality もない。すなわち自然の法則を apply したただけなのであります。

しからば我々の文芸は法則を全然無視してるかというところ、そうでもない。ベルグソンの哲学には一種の法則みたいなものがある。フランスでは、ベルグソンを立場として、フランスの文芸が近頃出てきている。吾々の方でも sex の問題とか naturalism とか世間に知れわたった法則等から出立^{しゅつたつ}し得るもの、その abstract の輪郭^{えが}を画いてその中につめこんだのでは生きて来ない。内から発生した事にならない、拵^{こしら}えたものになる。この方面からいえば、abstract からは出立^{しゅつたつ}されないので。しからば文芸者の造つたものから一つの法則を reduce することはできないかというところ。それは作者が、天然自然に書いたものを他の人が見てそれに philosophical の解釈を与えたときに、その作物の中からつかみ出されるというので始めから法則をつかまえて、それから肉をつけるというのではありません。

吾々の方でも時には法則が必要です。なぜに必要であるかといえばこれがために作物の *point* が出てくるという問題になるからである。あなた方の法則は *universal* のものであるが吾々のものは *personality* の奥に *law* があるのです。というのはいずれに出来た作物を読む人々の頭の間をつなぐ共通のあるものがあつた時そこに *abstract* の *law* が存在しているのです。

personal のものが *universal* の者でなくとも、百人なり二百人なりの読者を得たとき、その読者の頭をつなぐ共通なものが、なくてはならぬ。このものが一つの *law* である。

文芸は *law* によつて *govern* されてはいけない。 *personal* である。 *free* である。しからばまるで、無茶なものかという、決してさようではない。かようにあなた方の出発点と、吾々文芸家の出発点とは違っている。

そのものの性質よりいえば、吾々の方のものは *personal* のもので、作物を見て、作った人に思い及ぶ、電車の軌道は誰が引いたかと考うる必要はないが、芸術家のものであるとき、誰が作ったということがじき問題になる。したがつて製作品に対する情緒がこれにうつつて行つて作物に対する好厭の念が、作家にうつつて行く。なおひろがって作家自身の好厭となり結局道徳的問題となる。それゆゑ作物から当然得べき感情が作家に及ぼして、

しまいには justice という事がなくなって、ひいき 鼻負というものができぬ。芸人にはこの鼻負が特にはなほだしい。相撲すもうなんかそれです。私の友人に相撲のすきな人がある、この人は勝つた方がすきだと申します。この人なんか正義な人で、公平で、決して鼻負ではない。鼻負になるとこんな事ができない。かく芸を離れて当人になってくるのは角力すもうか役者に多い。作物になるときほどでもないようにも見える。

これほどまでに芸術とか文芸とかいうものは personal である。personal であるから自己に重きを置く。主がなくなつたら personal のなくなるのはあたり前だけれども、自己がなくなれば、芸術はだめである。

あなた方が尊ぶたつとことは、己でなくして腕おのれである。腕さえあれば能事のうじ了れりというてもよい。工場では人間はいらないほどあつてもその人間は機械の一部分のようなものである。mechanical に働く機械よりも、巧妙に働く腕が必要である。が吾々の方は人間であるという事が大切なので、社会上よりいふときは、お互に社会の一員であるけれども吾々の方は人間という事が大事になる。

ところがここに腕の人でもなく頭の人でもない一種の人がある。資本家というものでこの capitalist になると腕も人間も大切でなく金が大切なのである。capitalist から金をとり上

ぐればだめである、何にもできない。同様にあなた方から腕をとり上げて駄目^{だめ}である。我々は腕も金もとり上げられてもいいが、人間をとり上げられたらそれこそ大変だ。

あなたの方では技術と自然との間に何らの矛盾もないが、私どもの方には矛盾もある。すなわちごまかしがきくのです、悲しくないのに泣いたり、悦^{たの}しくもないのに笑ったり、腹も立たないのにおこったり、こんな講壇の上などに立ってあなた方から偉く見られようとしたりするので、これはある程度まで成功します。これは一種のEITである、EITと人間の間には距離を生じて矛盾を生じやすい。あなた方にも人格にないEITを弄^{もつ}している事もたくさんある、すなわちねむいのに、睡^{ねむ}くないようなふりをする義理もありましょうがね。かくEITは恐ろしい。吾々はEITは二次で人間が第一なのです。孔子様でなければ人格がない、なんていうのじやない、失格といつたつてえらいという事でもなければ、偉くないという事でもない、個人の思想なり観念なりを中心とするのである。

一口にていえば、文芸家の仕事の本体すなわち essence は人間であって、他のものは附属品装飾品である。

この見地より世の中を見わたせば面白いものです。私一人かも知れませんが、世の中は自分を中心としなければいけない。私は親が生んだので、親はまたその親が、生んだので

す。何も木の股からではない。人間は自分を通じて先祖を後世に伝える方便として生きるのか、または自分その者を後世に伝えるために生きるのか、どっちでもいいけれどもとりようでは二様にとれる。親が死んだからその代理に生きてるともとれるし、そうでなくて己は自分が生きているんで、親はこのおれを生むための方便だ、自分が消えると気の毒だから、子に伝えてやる、という事に考えてもさしつかえない。この論法からいうと芸術家が昔の芸術を後世に伝えるために生きているというのも、不見識ではあるがやっぱり必要でしょう。ことに旧芝居やお能なんかはいい例です。絵画にもそれがある。私は狩野元信のために生きていますので、決して私のためには生きてるのではないと看板をかけてる人もたくさんある。——身を殺して仁をなすのでしようが、personalityの論法で行くと、これはあてはまらないですね。こんな人はとりのけて、ほんとに自覚したらどうだろう、すなわちpersonalityより出立しようとする。狩野のために生きるのをよして自分のために生きようとする。まったく同じ事は決して再び起らない。scientificではどうか知らないけれども精神界ではまったく同じものが二つは来ないゆえに全然旧には復かえらない。なお他の一つは旧にかえるのではなく新しいdepartureをする。これらごまつてessentialなpersonalityを發揮する事ができやる。

導体的の文芸家美術家も、必要かも知れないが、人間の本分として、自覚しなければならぬ。このところが大切なところで十分に説明しなければいけないんですが、今日は時間がないからこれで止めます。

私のいうた事はあなた方と私どもの職業の違ちがいから私どもの方をくわしくいうたのだけでもあなたの方もある程度までは応用がききます、あなた方の職業の方面において、幾分か参考になる事があるでしょう。もつとも文芸部の会ですから応用がきかなくつても、威張いばつてそういう権利があります。しかし個人としてなり職業としてなり、ご参考になれば非常に私はうれしい。——それだけです。

〔一九一四（大正三）年一月十七日、東京高等工業学校において〕

青空文庫情報

底本：「21世紀の日本人へ 夏目漱石」晶文社

1998（平成10）年12月25日初版

底本の親本：「漱石全集 第二十五巻」岩波書店

1996（平成8）年5月15日発行

初出：「浅草文庫 第三十一号」東京高等工業学校「文芸部」

1914（大正3）年5月10日

入力：西村おきな

校正：きりんの手紙

2020年1月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

おはなし

夏目漱石

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>